

つなげよう 思いやりの心の輪

～まがたま祭り総集編～

まがたま

第18回 まがたま祭り 特集号
社会福祉法人上口福祉会
障害者支援施設まがたま
〒699-0201
松江市玉湯町玉造1649-2
TEL0852-62-2535
FAX0852-62-2586



第18回まがたま祭りは天候にも恵まれ、多くのお客様が足を運んでくださり、大盛況で無事に事故なく安全に開催することができ、最高の祭りとなりました。

文化伝承 心を重ねて



新たなメンバーも加わり、職員によるフラブラザーズもダンスを盛り上げてくださいました！ステージも広くなって、利用者様も一緒に皆さんが優雅に踊ることができて良かったです！お馴染みの曲「月の夜は」。またぜひ皆さんも楽しく踊りましょう。当日は、晴天に恵まれ利用者様、職員、会場の皆様と共にフラダンスで盛り上げました。
(看護師 錦織里佳)

南国気分 ～みんな集まれ！～



まがたま祭りの締めと言えはやはりこれ！今年も毎年恒例の書道パフォーマンスを披露しました。みんなで法被を羽織り、準備万端！パフォーミングが始めると、音楽に合わせて、即興で大きな紙に筆で字を書いたり、絵の具でそれぞれイラストを描いて作品を作りました。また、当日までの所で練習を行った、銭太鼓も一緒に、音楽に合わせて上下左右に振ったり、回しながら音を鳴らして会場を盛り上げました。そして、作品が完成すると、書いている人、音を鳴らしている人、応援している人、全員の心が一つとなり、温かい繋がりの輪を感じることができました。今年も素敵なひと時をありがとうございました！
(広報委員長 錦織優気)



今回第18回まがたま祭り実行委員長を務めさせていただきました。正直なところ準備から当日まで相当のプレッシャーでしたが、いざ当日を迎え、ご利用者様の楽しんでおられる姿、ご来場者の皆様がおっしゃる「楽しさ」と達成感を味わうことが出来ました。これから来年も再来年もずっとまがたま祭りを通じて、ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、職員、多くの人と盛り上げていければいいなと実感いたしました。
(実行委員長 黒崎満)



周辺の木々も、赤や黄色に色づき始めた10月14日、第18回まがたま祭りを開催しました。この日を迎えるまで、利用者のみなさんは、作品作りやステージの練習、販売準備等、いきいきと職員と一緒に取り組んでこられました。当日は、天候にも恵まれ、多くの皆さんと共に、実りの秋、食の秋、芸術の秋を楽しむことができました。また、利用者様をはじめ、ご家族の皆さま、地域の皆さま、ボランティアスタッフの皆さま、職員が一つになり、素敵な地域の交流の場となりましたこと、職員一同、心より感謝申し上げます。素敵な秋の思い出と、たくさん笑顔を残したまがたま祭り。この機関紙特集号で、もう一度お楽しみください。
(副広報委員長 桑原奈々)

編集後記



松岡隼矢 錦織優気
石田裕雅 桑原奈々
小室唯奈 松本啓介
土江和輝 今井宏幸



当広報に掲載された写真につきましては、プライバシーに配慮し、予め、掲載の同意を得ています。



夏から秋へ風情ある景色の変化、みんなを笑顔にする魅力あるステージ、美味しい食べ物、私達の心を楽しめる気持ちに変えてくれる魔法のようなものです。今回の看板はそんな楽しさにも不思議な時間をイメージして作りました。まがたま敷地内に落ちていた本物の木をバーナーで炙り、ステージのタイムスケジュールは鮮やかなオレンジと黒。そして所々に秋の紅葉を散りばめてみました。少し不思議な秋の雰囲気を感じて下さい。笑顔あふれる心温まるひとときを一緒に過ごしましょう。
(副班長 烏田龍治)

目を引く芸術 趣味を活かせる場



限りなく、優しく、優しく、そこに希望を抱く

今回のやすらぎ・すみれ班の作品は、今年のテーマでもある、「優しさ」をイメージして創作しました。利用者様には、ちぎり絵や、ペットボトルのキャップを貼り付ける作業などをして頂きました。初めてするような作業もありましたが、慣れた手つきでテキパキと完成させました。皆様、楽しんで作っていらっしやいました。作品というものは、作る時から楽しいというものは出来ません。皆で試行錯誤や工夫をすて、完成品を眺める。それらすべてがみんなの思い出になるのです。(生活支援員 片倉佐文)

やすらぎ・すみれ班作品



～元気をもらえる作品に～ 繋がる絆



こすもす班作品

こすもす班は、ビーズを使用し、てまがたまのシンボルマークであるカタツムリを作成しました。細かい作業ですが、利用者さま・職員で、指を使ったり、割りばしを使った工夫してビーズを引っ付けた。毎日少しずつ製作にあたり、少しずつ出来ていくカタツムリを見て、「綺麗だね〜」や「頑張ったよ〜」と言っていた嬉しかった。利用者さま一人一人に個性があり、毎日にぎやかに過ごしているこすもす班。これからも楽しく元気にいきいきと！毎日の活動を頑張ります。(生活支援員 黒崎由衣)

れんげ班作品



～個性と共に歩む～

日々是前進

今回は新しい技法にチャレンジしました。利用者様にはコスモスの絵を描いた花びらの部分にのりをたっぷりつけてもらい、三色の砂から好きな色を選んでコスモスを描いて頂きました。初めての挑戦に利用者様も楽しんで、かつ真剣に取り組んでくださいました。またコスモスの葉っぱは立体感を出すために花瓶を使用し、ふんわりするように仕上げました。とんぼは職員と協力して作成し、沢山飛ばすことで華やかにになりました。見ていて落ち着く、素敵な風景を楽しんでください。(生活支援員 坂根かな)

ほたん班作品



一つひとつ丁寧に

今年度、施設のご厚意により、缶つぶし機を購入してもらいました。そのため、班の日中活動の環境として、利用者様、職員で、施設職員の御家庭で出た空き缶を提供してもらい、缶つぶしに取り組みした空き缶のプルタブは、取り除いて再利用できるかと考え、このプルタブを利用した作品を作る事を、思いつきました。そして、利用者様の協力の下、吉兆の象徴である竜を完成しました。名付けて「プルタブドラゴン」です。モザイクアートは、森井元春様が職員と共にA4のマス目が付いた白紙に一枚一枚丁寧にのりをつけていく工程を1日6枚を目標に毎日コツコツと頑張られました。(生活支援員 景山哲彦)

たんぽぽ・ひまわり班作品



夢を掴む、成長を祈る木

毎日、元気いっぱい！にぎやかな放デイの子供たち。まがたま祭りに向けて、みんなと一緒に、世界で1つだけの「手の木」を作りました。自分で手の形をかたどりと、ハサミで切る作業はかなりの集中力がある作業でしたが、みんな一生懸命頑張りました。出来上がった作品を見て「僕の手、大きい！」「僕の方が大きいよ！」と大興奮！みんなの思いが詰まった素敵な作品が出来上がりました。まっすぐ上に伸びているこの「手の木」が大きな夢を掴みますように。(保育士 周藤純子)



放課後デイサービス作品

食事介助、お風呂介助、日中活動：なんでもこなすまがたま職員。活躍の場は介護や福祉の分野だけではありません！アーティストの顔を持つ職員の作品を紹介します。作品展の看板を風船で彩るのは松本課長！来場した子供たちに、即興のバルーンアートで笑顔を咲かせました。落合相談員はアクリル絵画を展示。独特な色使いと幻想的な雰囲気は唯一無二。観ていると穏やかな気持ちになること間違いなし！光支援員は植物や果物を粘土細工でリアルに表現。本物と見間違えうか、ポチャやザクらの作品を見ていると、なんだかお腹が空いてきました。



～職員兼芸術家!?～

特技を活かす



今井支援員と筆者の松岡は「祭り」と「ご縁」をテーマに写真の作品を展示。松江の伝統的な祭りを収めました。中には過去のまがたま祭りの写真も！伝承していきたいですね。シェーイー支援員は、この度初出展！手や果実を描いた作品はとても緻密で、優しい人柄が絵にも表れていました。利用者様や職員の作品でいっぱいなのは、まるで美術館の中にいるかのようでした。(広報委員 松岡隼矢)

開 全 秋 の 欲 食

～よいどい選んで食い倒れ～



まがたま祭りには、多種多様な屋台が登場します。美味しい料理が楽しめる「屋台村」。利用者様と共に作った野菜パン、きのこ等を販売する「特産品売り場」。そして、「ゲームエリア」では楽しいゲームが盛りだくさん。そして動物ふれあい広場ブースでは可愛らしさを兼ね備えたヤギ、犬、ハリネズミが迎えられます。

老若男女問わず様々な方に楽しんで頂けるよう一生懸命考えました。まがたま祭りは結束を高め、楽しいひとときを共有する場です。ぜひお楽しみください。

(副実行委員 坂本裕磨)



あなただもスターに！

まがたま祭りと言えば、ステージの出し物ではないでしょうか。玉湯地区の団体様へ出演依頼をさせていただいている中で、「まがたま祭りへのお誘いを待っていました。」と、とても嬉しく、ありがたいお言葉をいただきました。また、今年で18回目を迎えるこの玉湯地区に親しまれ、愛されているお祭りと感じる瞬間でした。

前日までの天気予報では、怪しい予報でしたが、当日は皆様の祈りのお陰で秋晴れになりステージが始まると、皆さん前に出て一緒に楽しみ、大盛り上がりとなりました。そこには「優しい」笑顔に包まれまさにカタチとなっていました。

(副実行委員 松坂正之)



今年も天気に恵まれ、青空の下、特設ステージでは、今年も沢山の出演者のみなさんが、演奏して、踊って、太鼓を叩いて、まがたま祭りに華を添えていただきました。ステージの上では、出演者の方と一緒に楽しく踊られる利用者様もおられ、元気いっぱい、笑顔いっぱいのお祭りになりました。

「The Tomorrow Girls」湯の郷たまゆら踊らう会」「田舎兄弟ダンス」「レイフラワーダンナパタマイベースたまゆら」「松江西高校吹奏楽部」「尼子太鼓振興会」の皆様、ご出演いただきありがとうございます。

(広報委員 今井宏幸)



豊 作 祈 大 自 然 からの 贈 り 物

これまでトマト班は、物を大切に「という強い思いを胸に「廃材」を再生し、生まれ変わらせてきました。今年もアウトドア、キャンプブームを肴とし、どこでもキャンプをテーマにBBQセット、テーブル、焚火台、椅子を完成させました。素材としてガスボンベや側溝の蓋など全て廃材から活用しました。

今後は、バーベキューハウスを活用し、利用者様や職員とで、バーベキューを楽しんでいきたいと思っております。

これからも、トマト班の利用者様と、物を大切に、日中活動に取り組んで参りたいと思っております。

(生産活動班 下宮雅行)



きのこ班では、きのこの生育、薪割り等の活動を、毎日利用者様と共に行っておりです。

日々取り組んでいる活動風景の写真と共に、私たちのシンボルである、きのこのイラスト等を貼りで表現しました。また、背景には、折り鶴を折ったものをみんなど貼り、カラフルでインパクトのある作品が完成しました。

その他にも、新聞紙で作ったきのこに、それぞれ自由に模様を付け、個性豊かなきのこの飾りも用意しました。

これからも、きのこ班一同、楽しみながら、「力を合わせて」日々の活動に励んで参りたいと思っております。

(生産活動班 錦織優気)